

日本周辺クロマグロ調査

松 宮 隆 志 ・ 相 坂 幸 二 ・ 柳 谷 智

1. 目 的

北太平洋におけるマグロ類、特にクロマグロ資源については、国際的な管理強化の要求が高まっている。このため、資源管理に必要な日本周辺及び北太平洋におけるマグロ類の漁獲資料及び生態学的情報の収集、解析並びに資源解析に必要な基礎資料を整備することが望まれており、当场では水産庁の委託を受けて1992年から調査を実施している。

2. 方 法

調査対象地区を図1に示した。

平成7年度日本周辺クロマグロ調査委託事業実施要領（水産庁、1995）に基づき、マグロ類の水揚げが多い日本海側の岩崎村と深浦、津軽海峡に面する大間、太平洋側の尻労と六ヶ所村海水の各漁業協同組合において、仕切伝票から水揚げ毎に漁業種別、魚種・銘柄別漁獲尾数及び魚体重を調査した。

また、八戸市に水揚げされたマグロ類については、市場開設者である八戸市及び株式会社八戸魚市場から提供を受けた集計表によって、月別に漁業種別、魚種・銘柄別漁獲重量を調査した。なお、八戸市については、同資料に基づいてサメ類の水揚げ状況についても調査を行った。

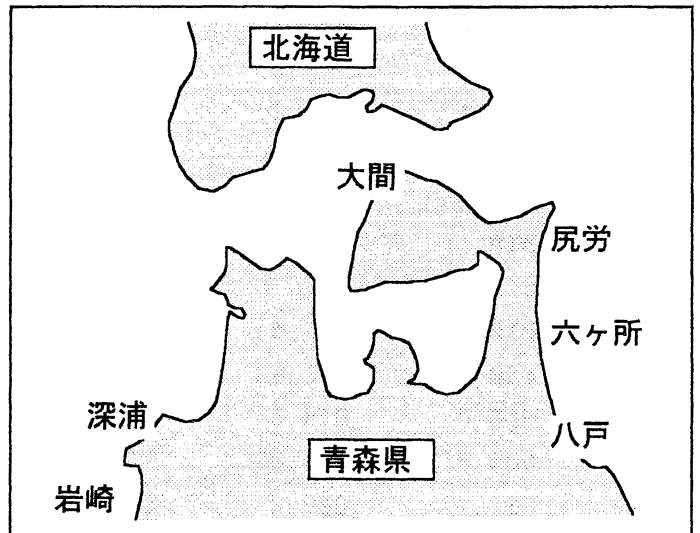


図1 調査対象地区

3 結果及び考察

各調査地点における1992年以降のクロマグロの水揚げ数量は、表1及び図2のとおりであった。

日本海側に位置する岩崎、深浦の両地区では、調査を開始した1992年以降水揚げ数量が漸減傾向を示している。一方、太平洋北部に位置する尻労及び六ヶ所の両地区ではメジマグロの増加が著しく、水揚げ量全体でも1992年を上回った。

太平洋南部に位置する八戸については、公海における流し網漁業の廃止とともに1993年以降マグロ類の水揚げ量が著しく低下しており、1995年も同様の傾向が続いた。

さらに、近年大型のクロマグロを対象とした曳釣漁業が盛んに行われている大間地区を今年調査対象地区に加え1992年までさかのぼって調査したところ、クロマグロの水揚げ量は1993年以降直線的な伸びを示していることが明らかとなった。

また、大間地区に水揚げされたクロマグロの体重組成は図3のとおりで、1993年、1994年の両年に比較して1995年に漁獲された個体には小型魚の比率が高かった。

1995年の青森県におけるマグロ類の水揚げ重量は、197,602kgにのぼっており、調査対象地区の水揚げ量は、県全体の82.7%をしめた。

表1 各調査地区におけるクロマグロ水揚げ状況

(単位：kg)

地 区	年	1992	1993	1994	1995
岩 崎	マグロ	691	884	2,993	441
	メ ジ	6,887	4,508	1,308	2,345
	小 計	7,578	5,392	4,301	2,755
深 浦	マグロ	8,920	3,448	1,055	494
	メ ジ	4,333	254	3,795	3,851
	小 計	13,253	3,702	4,850	4,345
大 間	マグロ	240	6,149	11,976	18,355
	メ ジ	0	0	0	0
	小 計	240	6,149	11,976	18,355
尻 労	マグロ	36,029	29,543	10,923	9,837
	メ ジ	44,849	6,670	5,066	105,990
	小 計	80,878	36,213	15,989	115,827
六 ケ 所	マグロ	8,223	2,980	1,169	2,761
	メ ジ	8,410	783	1,699	16,628
	小 計	16,633	3,763	2,868	19,389
八 戸	マグロ	4,273	0	1,766	789
	メ ジ	1,084	186	770	2,031
	小 計	5,357	186	2,536	2,820
調査地区合計	マグロ	58,377	43,004	29,882	32,646
	メ ジ	65,562	12,401	12,638	130,844
	小 計	123,939	55,405	42,520	163,490

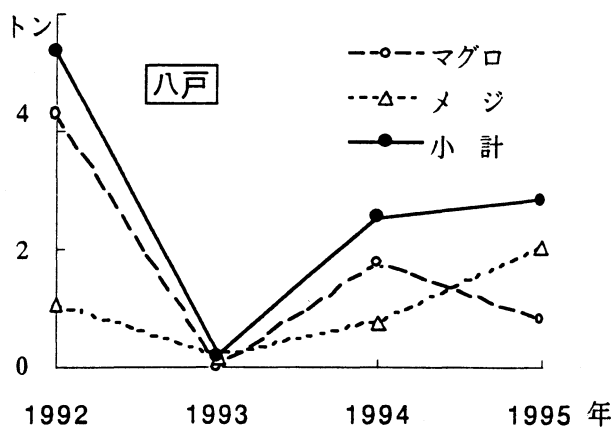
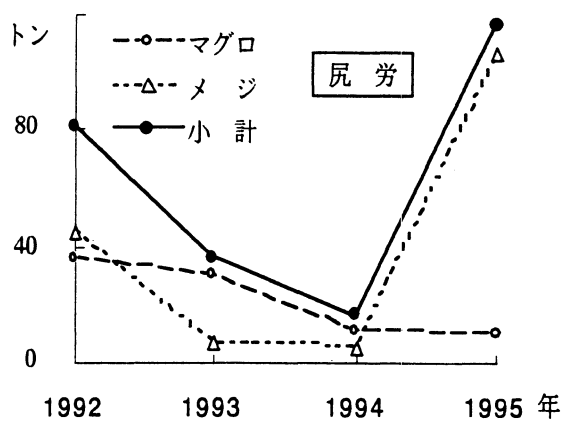
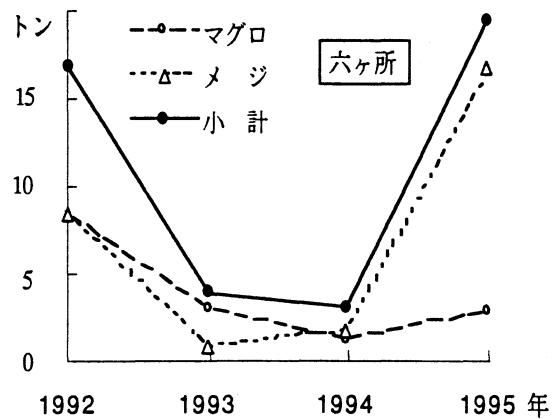
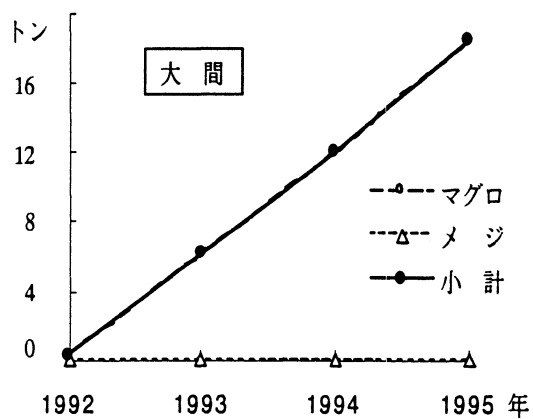
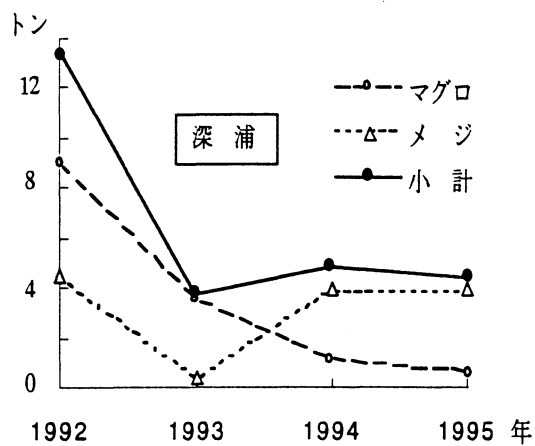
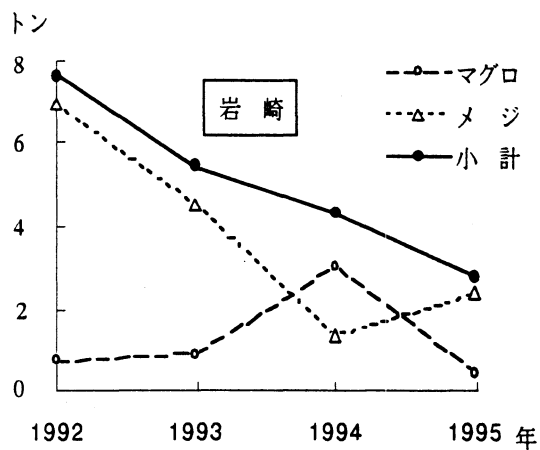


図2 各調査地区におけるクロマグロ水揚げ水量の推移

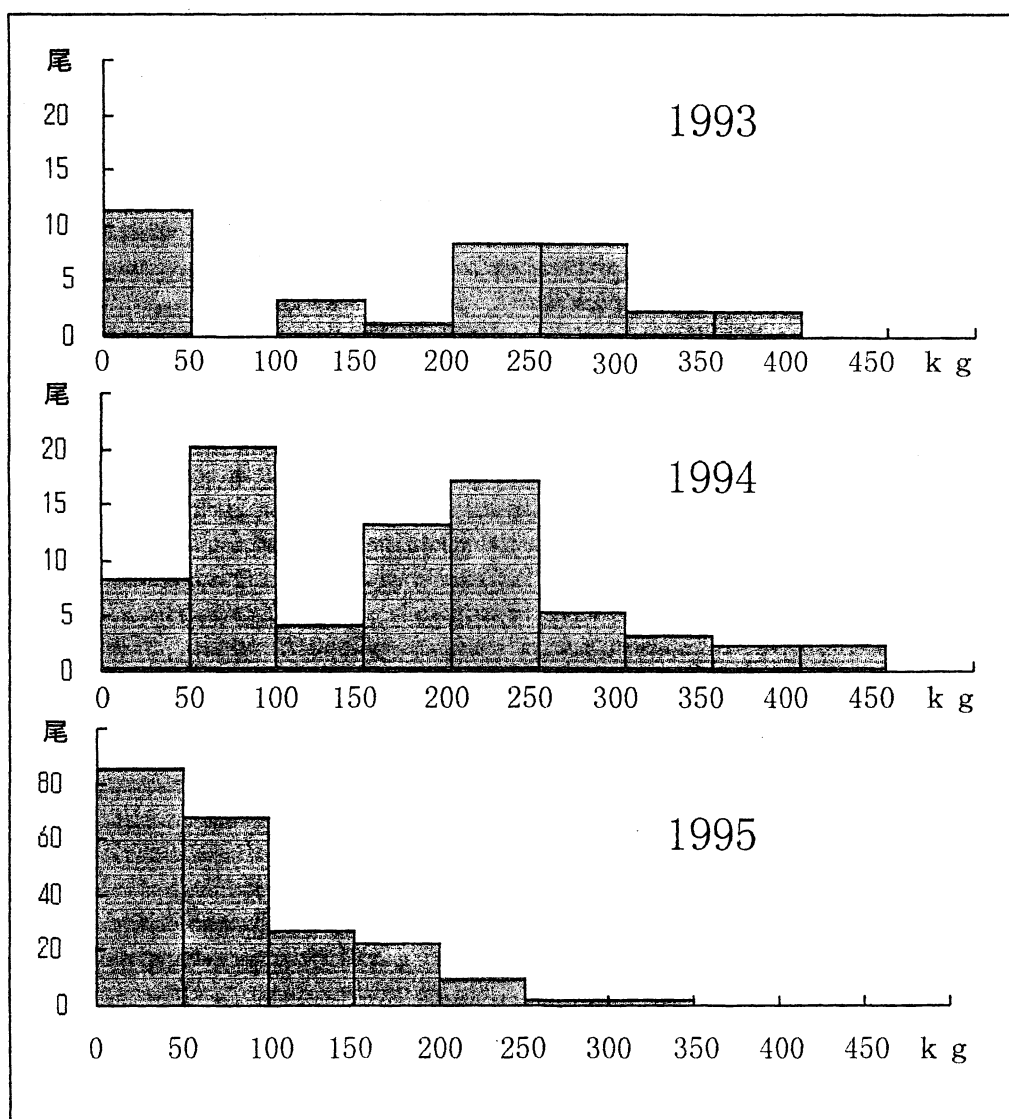


図3 大間地区に水揚げされたクロマグロの体重組成

八戸における1995年のサメ類の水揚げ数量は表2のとおりで、ネズミザメは14,889kgで前年の53.3%、その他のサメは467,024kgで前年の96.9%にとどまった。

1992年以前に流し網等で漁獲されていたネズミザメは、公海における流し網漁業の廃止にともなって1993年以降水揚げが減少している(図4)。

1995年のサメ類の水揚げ数量を漁法別に見ると、ネズミザメは延縄漁業で31%、沖合底曳網漁業で24%が水揚げされており、残り45%はその他の漁業によって水揚げされている(表3)。

また、その他のサメ類の大部分を占めるアブラツノザメの場合は、沖合底曳網漁業が79%、小型底曳網漁業が24%を占め、その他の漁業は水揚げ数量の6%を占めた(図5)。

表 2 八戸におけるサメ類の水揚げ状況 (単位: kg)

魚種 / 年	1992	1993	1994	1995
ネズミザメ	120,162	17,894	27,928	14,889
アオザメ	12,628		30	
ヨシキリザメ	800		79	
オナガザメ類	697			
その他のサメ	147		313,755	467,024
合 計	134,434	17,894	341,792	481,913

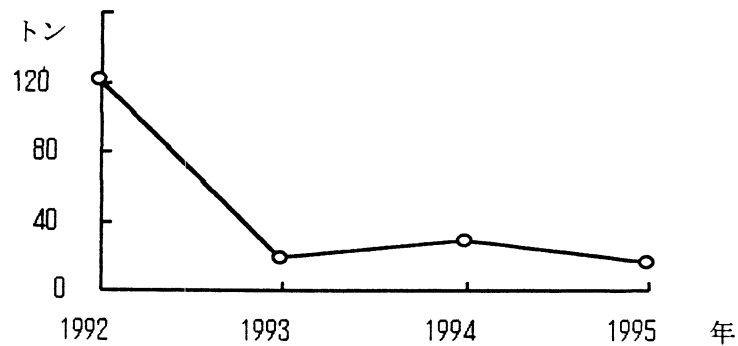


図 4 八戸におけるネズミザメの水揚げ数量

表 3 サメ類の漁法別水揚げ状況 (1995年八戸) (単位: kg)

漁法/魚種	ネズミザメ	ホシザメ	アブラツノザメ	その他のサメ	合 計
沖合底曳	3,550	4,363	362,602	0	370,515
小型底曳	0	300	69,720	0	70,020
延縄	4,597	0	0	0	4,597
定置	0	0	340	10	350
その他	6,742	0	29,689	0	36,431
合 計	14,889	4,663	462,351	10	481,913

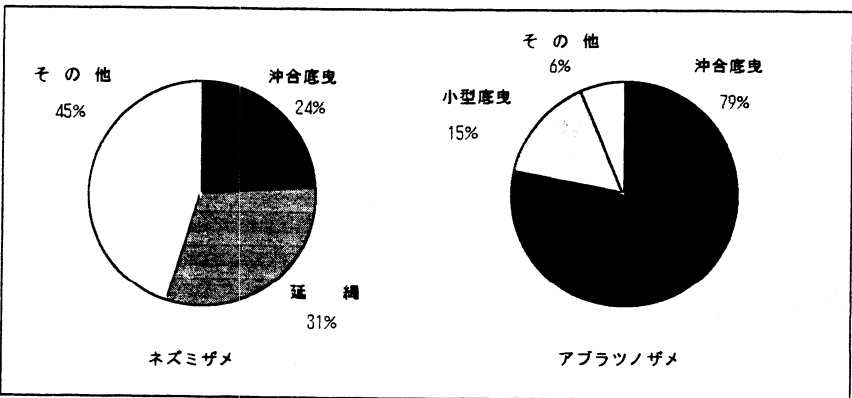


図 5 ネズミザメ及びアブラツノザメの漁法別水揚げ数量 (1995年八戸)